

韓国

輸出が回復も、内需に下振れリスク

SMBC Asia Monthly

日本総合研究所 調査部
 研究員 呉 子婧
 wu.zijing@jri.co.jp

■半導体に牽引されて輸出が増加

韓国では、外需主導で景気が回復している。実質輸出は2023年央から増加ペースを速め、2023年12月には前年同月比+11.2%と高い伸びとなった(右上図)。この背景には、半導体市場で世界的に在庫調整が進んでいることを受けて、韓国の輸出の約2割を占める半導体が急ピッチで回復していることが挙げられる。韓国の半導体メーカーはメモリ半導体の製造に競争力を持っており、昨今のAI需要の高まり等が輸出の追い風になっているとみられる。

また、輸出の約1割を占める自動車で、米国向け輸出が大幅に増加していることも全体を押し上げている。2022年8月に成立した米インフレ削減法が追い風となり、レンタル・リース用として販売される韓国製商業用EV車も補助金対象となったことから、2023年9月には韓国自動車輸出の米国向けシェアは50%を超えた。中国向け輸出が中国景気の減速を受け伸び悩んでいることもあって、韓国の輸出全体に占める米国向けシェアは2023年12月に19.6%と、約20年ぶりに中国(12月18.5%)を抜いて最大の輸出先となった(右下図)。

先行きについても、半導体と自動車が輸出を牽引するとみられる。2024年はAI向けを中心に需要拡大が見込まれ、半導体メーカーが生産を積極化すると予想される。

WSTS(世界半導体市場統計)は2024年の半導体市場規模が前年比+13.1%(2023年同▲9.4%)と予想しているほか、米Gartnerも同+16.8%(同▲10.9%)と予想している。多くの国でEVに対する支援策が実施されていることも、自動車輸出の追い風になる見込みである。中国景気の下振れリスクには注意する必要があるが、2024年は輸出が堅調に推移し、韓国景気を牽引すると予想される。

■内需は停滞、高金利が続けば景気回復のリスク要因に

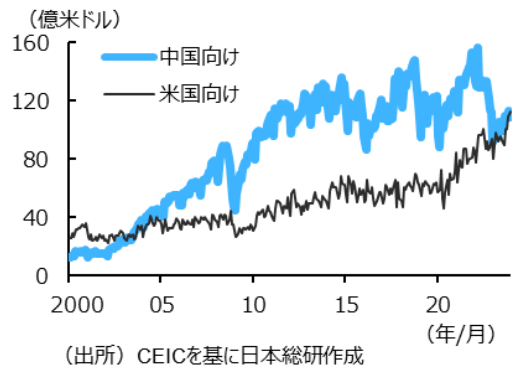
堅調な外需とは対照的に、内需は低調である。12月の実質輸入は前年同月比▲18.5%と、内需の低迷を背景に2022年央をピークに減少が続いている。11月の実質小売売上高も5ヵ月連続で減少する等、物価高や高金利を背景に消費活動が抑えられている。

2024年1月、韓国銀行(中央銀行)は8会合連続で政策金利を3.5%に据え置いた。ただし、インフレ圧力はなお強く、2023年12月の消費者物価指数は前年同月比+3.2%と、中銀の物価目標である+2%を上回っている。当面、韓国銀行は金融緩和スタンスに転換することが難しく、高金利の継続で、内需がさらに下押しされる可能性がある。外需主導による景気回復がメインシナリオながら、予想以上の内需の下振れが景気後退を招くリスクに注意を要する。

＜韓国の実質輸出＞



＜韓国の米中向け輸出額＞



当レポートに掲載されているあらゆる内容の無断転載・複製を禁じます。当レポートは単に情報提供を目的に作成されており、その正確性を当行及び情報提供元が保証するものではなく、また掲載された内容は経済情勢等の変化により変更される事があります。掲載情報は利用者の責任と判断でご利用頂き、また個別の案件につきましては法律・会計・税務等の各方面の専門家にご相談下さるようお願い致します。万一、利用者が当情報の利用に関して損害を被った場合、当行及び情報提供元はその原因の如何を問わず賠償の責を負いません。